

こころの言の葉

～第6集 伝えたい思い～



平成20年度「こころの言の葉」コンクール作品集
鹿 児 島 市 教 育 委 員 会 編

はじめに

鹿児島市教育委員会教育長 石踊 政昭

今年も、数多くの「こころの言の葉」が寄せられました。これは、「鹿児島市の教育を考える市民会議」の提言を受け、平成十五年度から実施されているコンクールで、本年度で第六回となります。これまで、「こころの言の葉」コンクール及び作品集には、各方面から大きな反響をいただいております。

この作品集には、中学生の子どもから親へ、親から中学生の子どもへあてた数十編のメッセージが掲載されています。面と向かつては、気恥ずかしくてなかなか言えないようなことを一枚のはがきに託し、中学生の親と子の交流を図り、お互いの存在について考えを深め合うという趣旨があります。はがきに書かれたメッセージの行間からは、書き手の思いがあふれてきます。子どもから大人へさしかかる揺れ動くこの時期の中学生の気持ち、そんな子どもたちに戸惑いながらも正面から向き合い、包み込もうとする親の様子。どの作品も読む者の心を揺さぶります。

皆さんで読んでいただき、親や子としての在り方について考える契機としていただければ幸いです。

最後に、素晴らしい「こころの言の葉」を寄せてくださったすべての皆さんに心から感謝の意を表し、はじめのことばとします。

平成二十一年一月

目次

「家族への思い」	中学生の子から親への言の葉	3
「慈しむ心」	親から中学生の子への言の葉	13
「成長のあかし」	揺れる・包む言の葉	23
「あふれ出る思い」	伝え合いたい言の葉	35
平成二十年度「こころの言の葉」コンクール入賞者一覧		44
審査員講評		45

「家族への思い」

—中学生の子から親への言の葉—



約束

パパ、パパがいなくなって二年半がたちます。中学生になったら「お父さん」と呼ぼうと決めていたのに、ずっとあのときのまま。

照れくさいけど、今日は「お父さん」と呼ばせてもらうね。

お父さん、私を、家族を支えてくれて、ありがとう。お父さん、私を、家族を応援してくれてありがとう。はずかしくて、言葉で伝えることはあまりなかったけど、感謝の気持ちでいっぱいでした。

お父さんが、最後に残してくれた「夢を捨てずに頑張る。」約束、守りぬいてみせるから……。

見守っていてね。お父さん。



わたしの家族

不器用だけど、人一倍優しいお父さん。

厳しいこと言ったりするけど、いつもルンルン気分のかわいいお母さん。

どんな時でも冷静に現実を受け止めて、心の底から優しい長女。どんなことでも相談できて、さりげない時に優しい次女。

そんなみんなが大好きな三女、わたし。

笑顔が途切れることがなくて、騒がしい家族。

「やかましい!!」とか言ってるくせに、笑顔のお父さん。

その横で、「今日の服かわいい?化粧もかわいい?今日肌の調子いいの」なんて言っているお母さん。

姉二人とわたしは、三人で一緒に話しているのに、みんな自分のことばかり話している。

でもなぜだろう。一人一人ちがう話をしているのに、いつだって五人同じ気持ちでいられるのは。なぜか、常にまとまってるよね。

すっごく不思議だ。なんだかそれって、すっごく幸せ。

こんな家族が、わたしの一番の誇りだよ。



お母さんに会いたい

私には、お母さんがいない。会いたいけど会えない。この気持ちは、誰にも分からない。お父さんにもあまり会えない。私は、お母さんを憎んでいる？私たちを残して、どこか遠くへ行ってしまった。私たちみんなを置いていった。家族がバラバラになった。

でも、憎んだとしてもお母さんは私のお母さん。私を産んでくれたお母さんだ。そのことだけは分かっている。

一つだけお母さんに言いたい。「産んでくれてありがとう、お母さん。お母さんに会いたい。」

ああ、この言葉がお母さんに届いたら、どんなに嬉しいだろう。

「お母さん、お母さん。」

お母さんには届かない。

届かなくても、何度も何度も言った。



ありがとう、父さん

父さんいつもありがとね。いつも父さんには嫌なことばかり言ったり、嫌な行動ばかりしてごめんね。父さんは私のために、朝から晩まで毎日必死に働いているもんね。

でも父さんには、ちよつとした障害があるから、トラックとかの免許を取りたくても、ほんの一部しか免許を取ることができないし、「ここで働きたい」と思っても簡単には働けない、働く期間が限られ、何ヶ月かしたら別の仕事を見つけないといけないときもある。こんなことが続くけど父さんは一言も弱音を吐かない。

あのね父さん、わたしが我慢すればいいんだったらどんな事でも我慢するよ。寂しくても我慢するから、絶対に「ごめんね」なんて言わないで。その言葉を聞いたたら、心が折れそうになるから、涙が止まらなくなるから、お願いだから言わないで。

普段恥ずかしくて言えないけど、いつも心の中で感謝しているよ。本当にありがとう。これから、もっともっと手がかかるけどよろしくね。大人になったら、私の奢りで何か美味しいもの食べに行こうね。それまで待っててね。



家族の約束

今年の夏、母さんは僕たちを残して出て行った。

ぼくは、それを知ったとたん、悲しくてしかたがなかった。涙が止まらず、ただ帰ってきてほしいと願うばかりだった。

そんなある日、父さんは「心の中の優しい母さんは亡くなったが、父さんは絶対に裏切らない、タバコもやめる。」とぼくたちに言った。

そんなぼくたちを思う父さんは、家族のかけがえのない存在だ。

その言葉を聞いたとたん、ぼくは、心の中で絶対に裏切らないと心に決め、

「今を生きよう」と思った。

「絶対一緒にいよう」

この言葉、死ぬまで忘れない。

一緒にいる、それが家族の絶対の約束だ。

父さん、ありがとう。

かけがえのない父へ



お母さんへ

辛くて息もできず、悲しくて涙も止まらず、涙の重みで顔が上げられずに苦しんでいたとき、お母さんが病気だと知った。そのとき、お母さんがすぐに死んでしまうのではないかとすごく怖くなった。怖くて震えた。でもお母さんの方がずっと怖いはずだと分かったら目が覚めた。お母さんの苦しみに比べたら私の苦しみなんてちっぽけなものだと気が付いた。最近、床につく日が多くなったね。しんどい素振りは少しも見せずにいつも明るく優しい。限りなく優しいから、時々病気だということを忘れてわがままを言って困らせてしまう。ごめんなさい。病気と正面から向き合って毎日楽しく過ごすお母さんは強い人だと思う。私もこれからどんな困難にぶつかっても、自分の力で立ち向かっていける強くて優しい人になるように頑張るから、いつまでも応援していてね。お母さん。



支えてあげたい

私のお母さんは、今まで何でも一人でやってきた。

おばあちゃんが亡くなったとき、お母さんは涙ひとつ流さずに夜中まで一人でお葬式の準備をしていた。本当は自分が一番泣きたかったはずなのに。だれかに支えてほしかったはずなのに。そんなお母さんを見て、とても心が痛くなった。私が支えてあげたいと思った。でも、そのときの私は支え方がわからなくて、うまく支えてあげられなかった。

それから何ヵ月もたった今でも、お母さんは何でも一人でやっている。でも、これからお母さん辛いことや悲しいことがあったら、私が支えになるから。



ひまわりの笑顔

いつも、ひまわりのような笑顔で家事をこなしているお母さん。

「だけど、そんなお母さんに一つだけお願いがあります。もう私に毎日の「今日はどうだった。」って言うの卒業してください。私だって中学生になったし、そんな毎日ワイドショーみたいに、いろんなことが起こるわけでもないのに、毎日聞かれると、少しうんざりしてしまいます。」

そんなことを毎日言うのは、私のことを心配しているからだと思っています。

たぶん、もしかしたら、ひまわりの笑顔のお母さんだからかな、とも思っています。

今、私は、反抗期という時期に入っているそうです。だから、お母さんには迷惑をかけるかもしれません。

お母さん、改めて、よろしくね。



大切なもの

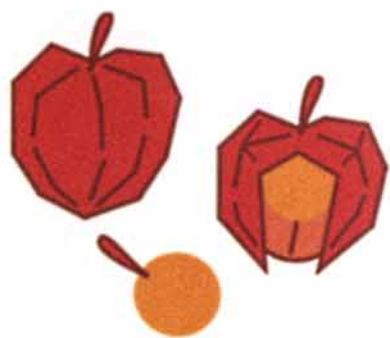
以前、テレビ番組の中で「母親が一番大切なのは何なんだろう。」というクイズがあった。

回答者は全員「子ども」と答えた。

ぼくは、「自分の命に決まっているじゃん。」と言ったら、お母さんは「自分の命より、自

分の子どもの方が大事だよ。」と言った。

ぼくはちょっと恥ずかしくなったけど、でも、ちょっとうれしかった。



「慈しむ心」

— 親から中学生の子への言の葉 —



輝く優しさ

「お父さん、これでおいしいごはんたべてね。」

君は十七枚の百円玉をセロテープで貼りつけ、遠く離れた関西で暮らしていた私に手紙を送ってくれた。君が六才の頃だった。家の都合で君は親から離れ一人で鹿児島のおじいちゃんの家で暮らしていた。どんなに淋しかったことだろう。

だけど、君はそんな中でも私のことを気遣ってくれた。

そんな君の優しさは、中学生になった今でも輝いている。

いつでも、私が仕事に集中できるように笑顔でいてくれる。

忙しく職場に泊まる時は、電話で学校の出来事を楽しそうに話してくれる。時には、辛いこともあるだろうが、どんな時でも笑顔で前向きな姿を見せてくれる君に心から感謝しています。

君の父親で良かった。本当にありがとう。



生まれてきてくれて

「このころの言の葉」って何だろう……。言葉じゃないのかな。「このころの中にしまつてある大事なもの」なのかな。普段、日常におわれて、忘れかけている大事なもの……。娘にいつも言いたくて言えない、大事な言葉……。そんなところかな。思えば、いつも仕事ばかりで、あなたの相手をあまりしてあげられないね。思えば、いつも小言ばかり言っているね。思えば……。きりがないね。でもね、あなたが生まれてから今まで、いつも心の中で思っている言葉があるよ。時々忘れてしまうこともあるけど。きっと、これが、お母さんの「このころの言の葉」じゃないのかな、って思っているよ。娘のあなたへ伝えたい、「このころの言の葉」。それはね、ちよぴりはずかしいけど、とってもすてきな言葉なんだよ。

「生まれてきてくれて、ありがとう。」



家族は一緒が一番

「家族は一緒が一番だよ。一緒について行こうよ、鹿児島に。」

それはそれは驚きのひと言でした。

去年の十二月、夫の転勤が決まり、家族に不安が走りました。

一緒に行くか、行かないか。考えても考えても簡単に答えは出ず、悶々

とした空気が何日も続いていたある日。衝撃のひと言、「家族は一緒が一

番。」まさか、あなたの口からこんな言葉が出てくるとは。目が覚めたよ

うでした。これでスッキリ。このひと言がきっかけで大きく事が動き出し

ました。いつの間にか、家族の事をそんなふうに見られる長男に成長して

いたただなんて。あなたの頼もしいひと言で、今の家族全員での鹿児島生活

がある事に感謝です。ありがとう。



理由

小さかったよね。笑顔が子どもの頃とちっとも変わらない君を見て思うこと。

中学二年生になり、質問にさっぱり答えられなくなりました。悲しいです。

知ってた？最近お母さんが漢字検定や硬筆を始めた理由——。暇つぶしとか言っているけど、本当は、「お母さんすごいね。」と思ってほしいから。負けないよ。

感謝していること——。「ちょっと、私がやるから。」といって、非力な私に代わって力仕事してくれること。

大きくなったよね。

娘よ。あなたがいるから頑張れる！負けないよ。



貴方が好きなのわけ

私は貴方が大好きです。それは、貴方が良い子だからではありません。一生懸命頑張っているからではありません。優しくて思いやりがあるからでも、勉強が出来るからでも、走るのが速いからでもありません。

私が貴方を好きなのは、何をしててもかわいいからではありません。

甘えてくれるから、わがままだから、手のかかる子だからでもありません。

では、なぜ貴方が好きなのでしょう。理由なんかありません。ただ貴方が貴方だから、私は貴方をとても愛おしく思うのです。

ですから、貴方は自信を持って、誇りを持って自分の人生を歩いていいのですよ。貴方であるというだけで、愛して守ってくれる人間が、この世界に必ず存在しているのですから。

どんな貴方でも、私は大好きです。



ここだけの話　― 独り言 ―



「たっだいまあ」元気な声とともに賑やかに帰ってくるあなたたち。今までの静けさはどこへやら、ピーチクパーチクかしましくうるさい事。いつの間にかママの背丈も追い越して、胸もおしりもご立派に成長して、おなかのお肉の付き具合だってなかなかのものなのに、相変わらずの甘え口調。同じ年頃の子たちを見ても幼すぎるのではと心配も……

でも、まっいいか、隣の芝生は青く見えるものだし、仲が良くて羨ましいなんても言われるし、それにそのうち「ママより彼氏」なんて言われる日もきそうだから、その時がくるまでは、おもいっきりの甘えんぼうさんでいてもらおうと思いつつ今日もまた、「静かにしなさい」と声をあげるママなのでした。

これからも よろしく

お父さんでさえ思いもよらなかった離婚で君を悲しませたのは、まだ君が幼稚園の年少組に入ったばかり、三歳でしたね。

幼稚園から帰ってくる君のために毎日、家に来てくれていたお祖母ちゃんに「お片づけは？」と注意されて「自分の家でもないくせに！」と強がっていた君。母の日が来ると「母の日なんか、なければいいのに……」と悔しがっていたね。

あれから十一年、いろんな辛いこと乗り越えてきたね。今は、新しいお母さんとお弁当を作ったり、妹の面倒をみたり、嬉しく思います。思春期真っ只中の君の事は、分からない部分も多いけど、お父さんは、いつでも君のことを見守っていることを忘れないでね。

これからも家族仲良く暮らしていこうね。



私の子どもだから

「お母さん ○○○のプリントがない。」

昨日配られた物、教科書、ノート、いろんな物が行方不明になります。

「机の周り、カバンの中、しっかり捜してごらん。」

「見たけど無いものは無い。」

「片づけが悪いからよ。」

口調が強くなり、イライラしてお互いに、気まずい雰囲気が多い日々が続いていきます。

母もあなたの時期そうだったかなあ。振り返ってみるけど思い当たらず、父に似たんだと決めて諦めました。

これから少しずつ良くなることを信じましょう。だって、私の子どもなんだから。



もつと知りたい あなたのことに

お母さんはお母さんなのにあなたのことをあまり知りません。

親子で毎日話をするのに、あなたの話は何故か他人のことばかり。お母さんが本当に聞きたい、知りたいことは、あなたが今学校やいろいろな場で何をしてどんなに感じているのかということ。あなたのことが知りたいのです。困っていることや悩んでいることも話してほしいです。

お母さんはあなたの友達ではありません。あなたの保護者です。あなたを保護し守る役目があるのです。でも残念ながらあなたのことを知らないお母さんはあなたを守りきれるか不安です。

本当にあなたが困ったとき一人で悩まないでほしい。そんなときにあなたを守ってあげられるお母さんになりたい。だからお母さんはあなたのことが少しでも知りたい。



「成長のあかし」

―揺れる・包む言の葉―



お母さんへ

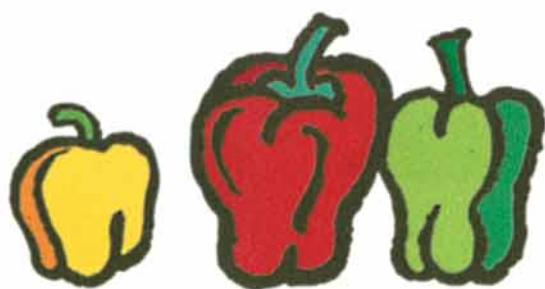
お母さん、まず私は言いたい。私は、いい子じゃないよ。ただ長女だから。だからお母さんは、「いつもありがとね、しっかり者でうれしいわ。」なんて言ってくれる。でもね、私は正直もっと甘えたいよ。しっかり者だったら手がかからないから安心なんでしょ。弟を見て思う。私が小学生の時、わざわざ漢字辞典まで買って勉強教えてくれた？宿題しないの？と声をかけてくれた？弟と比べることはまちがっているかもしれない。だけど、私は、そんなプラス思考でもないし、悪い方向ばかりに考えてしまう。でもね、こんな事を思う時点で私はお母さんに甘えているんだよね。私に人の心が読める力があれば、お母さんの心の声を聞いてみたい。お母さんのことは好きだよ。でも私のことも好きかな。私のことをいい子だなんて思わないで。



三兄弟の長男さんへ

長男さんは、いやじゃないですか。親の反応を敏感に察知し、それに応えようとしてくれるので、かわいそうになる時があります。例えば、弁当を作ってもらっているからと、同じ時間に起きてきたり、バタバタしている母のために、弟たちを起こしてくれたり、買ってほしい物もぎりぎりまで我慢したり、いつもいつも、それに甘えてしまっている母ですが、あなたがいてくれてとても感謝しています。ありがとうございます。

学校ではどうなのでしょう。心配りしすぎて疲れていませんか。これまで、自分の思っていることを親にも話してほしいと、聞いてきたつもりですが、父や母はそれに応えているのでしょうか。家族だけでなく、いろいろな方々とのつながりのなかで大きくなってほしいと思っています。自分の夢、大切に。いつまでも応援していきます。



私の空

私はね、私の空を、私の羽で、私の飛び方で飛んでいるの。

私は、飛びたいように飛んでいるの。

でもね、たまにね、お母さんたちは、私が飛ぶのを邪魔している。

そうしているつもりはないのかもしれないけど、私の空を雲でかくそうと

している。

私の羽を取り替えようとしている。

だからね、お願いがあるの。

助けが必要なときはちゃんという。

だから、それまでは私の空を明るく照らしてほしいの。



岐路に立つあなたに

早いもので、あなたも自分の人生と真剣に向き合う歳になったのですね。何をやるにも、先ず迷い、「どうしよう」が口癖のあなたが、少しずつ人生の階段を自分の足で上り始めている姿を、ハラハラしながらも一歩離れて見守ることにしました。一歩離れて見てみると、意外に頼もしくなったあなたを発見して、嬉しくも少し淋しい親心を味わっています。相変わらずの「どうしよう」はなかなか直りませんが、心の中にはしっかりと次にするべき答えが準備ができていますね。

今、初めての大きな岐路に立つあなたに、迷いがあって当然だということ、全ての最終決定ではないのだという気楽さ、精一杯の道の先には新たな希望への岐路がいつでも待っているのだということを知っていてほしいと思います。今日は先ず、今日の精一杯を……。



操り人形

ぼくの母は、否定的である。ぼくが何を言っても必ず「だめ」で通される。

だからぼくはいつも母の言うことにしたがっている。

まるで操り人形だ。

いそがしいのはわかるけど、もう少し自由にさせてほしい。

いらいらするのは分かるけど、そんなに怒鳴らないでほしい。

いくら否定的な母でも、この気持ちは分かってくれるはずだ。

お母さん、もう少し僕の気持ちも理解してください。



ゆっくりゆっくり

君が母ちゃんの誕生日に贈ってくれたローズピンクの一輪のバラ。

はにかみながら

「お母さん、これ、誕生日おめでとう。」

と、手渡してくれた。花びんに差して、朽ちていくのが口惜しく、もったいなくて、ドライフラワーにして、大事に飾っておくね。

人よりゆっくりゆっくり歩んでいる君に、母ちゃんはしばしば般若と化し、地団駄踏んで怒るけど、君はいつも一枚上手。母ちゃんのヒステリーをケロリと許してくれる。

君を叩いた掌が、怒りと後悔を薄めるように、じいんとしびれ、涙がささくれだった心を洗い流す。人として、何が一番大切なのかを、先入観や思い込みで凝り固まった眼のウロコを、一枚一枚丁寧にはがすように、君に育てられているよ。君と共に歩んで行くよ。ゆっくりゆっくり、心に寄り添いながら。



心の翻訳機

わたしの心の翻訳機は、中学生になってから、少し調子がおかしい。特に、両親の前になると。

「はい」と答えるところが「うざい」、「ありがとう」と言いたいのになに無言。なぜだろう。

そんなことしか言わないわたしに、この間、母がついに声をあげた。「いい加減にしなさい。……」「ごめんなさい」と言いたい。わたしの翻訳機はウソつき!!自分でもビックリするくらい大声で「うるさい!!」と言い捨てていた。なんで?なんで……。わたしは、怒られて泣いた、というよりも自分が嫌になって、ずっと泣いた。母も、こんなに泣いたのかな?強がりな母は、わたしの前で泣くことは決してない。でも、本当は、裏で泣いていたのかもしれない。そう思うと、また涙があふれてきた。

その後、いつ治ったのか分からないけど、わたしの翻訳機は、本調子に戻った。ちゃんと「ごめんなさい」も言えだし、「はい」も「ありがとう」も言えるようになった。

ごめんね、お母さん。

ありがとう、お母さん。



「脱なにやら宣言」

「ひいちゃんは、もうパパとはおふろに入らない。」と脱パパとおふろ宣言をした小学二年生。「ひいちゃんは、もう自分のことひいちゃんって言わない。わたしって言う。はずかしいから。」と脱ひいちゃん宣言をした小学三年生。「パパ、ママって呼ぶのははずかしいから、これからは、お父さん、お母さんって呼ぶね。」と脱パパ、ママ宣言をした小学五年生。

きっとあなたは、これから「脱何やら宣言」をして一步一步大人に近づいていくのでしょう。おなかにいる時から、あなたを知っているお母さんにとって、あなたの「脱何やら宣言」は、嬉しくもあり、さみしくもあります。

でも、どんなことがあっても、お母さんは、あなたの味方だし、これから先もずっとあなたの成長を見守り続けていききたいと思っています。

これからどんな「脱何やら宣言」が飛び出すのか……。心して待っています。



気付いて

母は私のことをなにもわかっていない。わかってくれようともしていない。私が姉とけんかしてもいつも姉の言うことが正しいと思いこみ、悪いことをしていないのに怒られる。

「私は悪くない」と言っても「わかっているんだから」とわかってもないのに言ってくる。

だから、ある日私は決心した。もう母とは話さない。

それから最低限度しか話していない。周りのみんななみたいに私は母と仲良くない。

だけど本当はもっともっと仲良くなりたい。ちゃんと話したいことたくさんあるよ。

だから気付いて。私の気持ち。



「自由」ということ

「大人って自由でいいな。」と呟いたあなた。

あなたの考える自由とは、どんな事ですか。

好きな事ができる。苦手な事は避ける。束縛されない。などですか。

大人になると、自分の行動には全て責任を持たなければなりません。生活には

ルールがあります。結果は自分に返ってきます。

して良い事、悪い事、しなければならぬ事。

それを判断するのは他の誰でもない、自分です。

自由と自分勝手は違うという事を覚えていてください。

今は、友人や周りの人たちと関わる事で、社会性を身に付けていけばいいと思います。

あなたももうすぐです。希望に満ちた未来、すばらしい自由を手に入れることができるように願っています。



プレッシャー

お母さん、あなたは、テレビで金メダルを取っている人がいたり、努力している人を見ると、いつも私に

「あの人は、努力をしたから笑っているんだよ。あんたも、一生懸命努力しないと、来年の受験で泣くんだよ。」

と言います。私は言われるたびに

「分かってる。分かってるから、もう言わないで。」

と思います。母のその言葉を聞いたたびに、泣きたくなくなります。きっとそれは、自分のプレッシャー。影ではとても努力しているし、人一倍私の志望校への思いは強い。だから、言われるとすごく腹立たしくて悲しくて、悔しくなります。私はがんばっています。だからこれからはこう言ってください。

「少しずつ、あなたのスピードでがんばって。お母さんは応援しているよ。」と……。



「あふれ出る思い」

— 伝え合いたい言の葉 —



ありがとう

「ありがとう」

たったそれだけのことなのに、言うのが難しい。友達に言うのはすごく簡単なのに、それが家族となると全然言えなくなるのは不思議だ。

特に両親には、生まれた頃から世話になってるのに全然言えない。生まれてから今まで

「ありがとう」

と言ったのは数えるくらいしかないだろう。「おはよう」や「おやすみ」は普通に言えるのに、なぜありがとうは言えないのか。それは、ありがとうにはすごくすごく深い意味がこもっているからだと思う。だから今まで言えなかったのだと思う。

これからの人生で

「ありがとう」

とすることがあったら心をこめて言いたい。

言葉と心

「うるさいなあ」私の口ぐせ

「いいじゃん別に」素直になれない

言いたくない言葉のはずなのに口から出てしまう。

「ごめんなさい」反省の言葉

「ありがとう」感謝の言葉

心の中ではいつも思っていることなのに
なんで言えないのだろう。

感謝の気持ちでいっぱいにはずなのに……

いつ言えるかな？

心の底から「ありがとう」と

誰に似たのか

「はあ〜」とため息。よくしゃべり、いつでもニコニコ。そしていつでも元気。

「落ち着き欲しいよね〜。あと、一年くらいはかかるかなあ〜誰に似たんだらうね〜。」と夫婦で顔を見合わせ苦笑い。

我家のムードメーカーの息子君。性格、成績、責任感どれをとっても波があり、涙もろくて、人なつっこい、尻が軽くてすぐに頼まれてはお手伝い。

「まっ！そこがいいところ。それでいい。」と、こっそり笑顔で見守り、ホッとすると母です。

受験、がんばれヨ。見せてくれよ、お前のそこがいい、それでいいところを。

私の娘なら

ついこの前まで帰宅すると「お帰りなさい！」と手や足にしがみついて離れなかったのに、ふと気がつくつと、声を掛けても「何の用なの！」と言わんばかりににらみ付けられ、無視される事も多くなった今日この頃、これも多感な思春期の成せるわざかと思いつつも（あの時に怒鳴った事が、いや勉強しろと説教ばかりしてきた事が）といろいろと考えています。淋しくもあり親離れの意地かなと思いつつ又々説教してしまいます。でも本当は健康であれば良い。あーいさつがすっかりできれば良い、勉強は……まあいいか、多くは望まないようにしよう。私の娘なら分かってくれるよね。朝、顔を合わせた時「おはようございます」、帰宅した時「お帰りなさい」この言葉を大きな声でにっこり笑って言うてくれることが何にもまして嬉しい言の葉です。勉強は……？まあ、その次かな！

ガラスとばんそこう

「はやくしなさい。」

その ことばは

私の心に落ちて

心を傷つける ガラス

「うるさいな。」

その ことばは

私の心に落ちて

けがをした 私の

心の叫び声

また一つ

心に小さな傷を負う

でも

その小さな傷を

優しく包んでくれたのも

お母さん

あなたの ことば だった

「大丈夫？」 「がんばって。」

その一言、一言で

傷が一つ二つと消えていく。

もう 痛くないよ。

いつもありがとう、

魔法のばんそこう

あたたかい

「いつもありがとうね。」

こんなかんたんな一言が

なかなか言えない私がいる。

だから、流れて軽く言ってみた。

お母さんは、

「どういたしまして。」

笑って言った。

私の心はすごく

あたたかくなった。

会員番号 | 番

小学生の頃 友だちから 自分の容姿について傷つく事を言われ

「僕も お兄ちゃんみたいに普通に生まれなかった。」

と悲しげに言う君の顔を見て胸が痛んだ。

「ごめんね」と心の中で謝った。

大丈夫、何があっても 君は父と母が全力で守るから。

あれから何年……

そんな事 あったっけ? と思い出すくらい心も身体も 立派に成長してくれました。

今の君は 惚れてしまうくらいカッコイイよ。

母は これからも

君のファンクラブ 会員番号一番だからね。

報告会

「ただいまー!」

声のトーンでわかります。

今日は何かいいいことあったかな。今日は

何かつらい思いしたのかな。着替えをすま

せてそのままキッチンで報告会。

母の知らない外の世界。

いろいろあるんだね、中学生も。

何気ない毎日でも、いろんな思いをして

過ごしているんだね。

今は思いのまま、話してくれて、本当に

ありがとう。

いつまでも続いて欲しい報告会……。

いやなこと

本当はね。心ではすごくいやになるんだ。「片付ける」「手伝って」「早く帰ってこい」って言われるといらいらするんだ。だけど、ぼくがすごくいやなのは、自分のこのいらいらすることだ。当たり前前のこと言われるといらいらする。このいらいらがいやなんだ。いつもこのいらいらに負けてつかつとなる。押しえたくてもおさまらない。だからいつも物に当たる。お母さんにいろいろ言われるのがいやなのではない。自分がいやなのだ。だからね、お母さん。少しは分かってくれる？たしかにぼくが悪いけどしかたないんだ。でもいつか、このいらいらをこえて、素直になるのをまっけて。これがぼくからのお願い。

ボクは悪くない

あいつが先に手を出してきたんだよ！
ボクの方が年上だからって、全部ボクが悪いのか！ 一発やり返したただけで、ウソを言っているんだ！ キックなんかしていない！
ウソ泣きだ！…… ほら！ 後ろであっかんべーなんかしている。気付いてよ。「ボクは悪くない。」
親に怒られている時の心の叫び

点と線と勝利の女神

大好きな部活動も終わり、いよいよ受験となりましたね。

キャプテンを務めるようになってからの部活は、一度も勝つ事がなかったね。悔しい思いも、辛い思いも沢山味わいましたね。

お母さんは、そんなあなたの姿を見て、チームプレーの厳しさ難しさを痛感しました。そして、リーダーとしての在り方をあなたから学び、あなたの強さ、優しさを改めて感じました。そしてあなたも、いよいよ競争社会に足を踏み入れます。可哀想な気もしますが、誰もが通る道、いや単なる通過点。自信を持って突き進んでください。これから先通過するいくつもの点と点が繋がって、きっと素敵な未来があなたを待っていることでしょう。なぜなら勝利の女神は点（結果）ではなく線（毎日の努力）にほほえむからです。元気一杯、真っ直ぐな太い線を描く。

弱音をはいてもいいんだよ

毎日よくがんばっているね。お疲れさま。

精一杯毎日がんばることは、素晴らしいことだよ。でもがんばりすぎているように見ていて辛い時がある。時には休んだり、足ぶみしたり、止まったりすることも大事だよ。自分から重い荷物を背負って坂道を登っているようで、今にも倒れそう。

時には後ろを見て。たくさんの人たちが、一緒に荷物を持ってあげようと待っているよ。

弱音をはくことは決して悪いことじゃない。

泣いたって、涙をふいて笑顔を見せてくれればそれでいいんだよ。歩いてきた道は、明るい明日へと続いているからね。

おねがい

言葉ってむずかしい

私はそんなつもりで言ったんじゃないのに。

あなたを傷つけないわけじゃないのに。

少し表現を間違えただけなの。

だから、そんなにすぐ怒らないで。

私、不器用だから。

上手に言い表せないだけ。

だから、もっとゆっくり、私の話を聞いて。

いつか

学校がきらいだ。あの校舎も、あの先生たちも、まわりの人や友達も、みんな大きらいだ。

だから、学校に行くと、おなか痛くなったり、気分が悪くなったりして、よく保健室へ行った。

ある日、お母さんに、「頭が痛い。」と、うそをついて学校を休んで、一日家で過ごした。楽だった。

それから、毎日のようにうそをついて休んだ。でも、ある日、お母さんが「なんで学校にいかないの？」と言った。わたしは「学校にいくと気分が悪くなる。」と言って自分の部屋に行った。

それから一ヵ月ぐらいたった頃、またお母さんが、「なんで学校にいかないの？」って聞いてきた。あの気の強いお母さんが、涙目で、声をかすれさせて。わたしは驚いた。お母さんは弟の心配しかしていないと思っていたから、わたしのために泣いてくれることにすごく驚いた。わたしはお母さんが泣いているのを見て「学校にいかなくや。」と思った。でも、正直きつかった。でもがんばることにした。

お母さんには、まだまだ心配かけるけど、いつか親孝行しようと思う。

余裕をもって

君の正義感はすばらしいと思います。でも余裕をもって、もう一度考えてみてください。いろいろな角度から物事を考えるよう努力してください。正義は一つではないことが分かってくると思います。

君の一生懸命がんばる心はすばらしいと思います。でも余裕をもって、周囲を見てください。他の人だっがんばっていることが分かると思います。勝つことがすべてでないことが分かると思います。

君のやさしさはすばらしいと思います。人に対するやさしさを大切にしてください。

きみがいるから

きみがいるから	笑顔になった
きみがいるから	優しくなれた
きみがいるから	強くなれた
きみがいるから	多くの人との出逢いがあった
きみがいるから	たくさんの本も読んだ
きみがいるから	昆虫も少しだけかわい
きみがいるようになった	料理のレパートリーも増えた
きみがいるから	炎天下での試合の応援も楽しめた
きみがいるから	もう一度空を見上げるようになった
きみがいるから	睡眠不足も苦にならなら
い	
そして	きみがいるから
った	私の世界は広が
きみの母親であることに	心から……あり
がとう	

平成20年度「こころの言の葉」コンクール 入賞者一覧

大 賞

中学生の部	親 の 部
田 澤 夏 美	平 山 由 美

準大賞

中学生の部	親 の 部
藤 山 美 月	祝 原 佳 苗
石 村 夏 美	迫 田 一 平

優秀賞

中学生の部	親 の 部
米 盛 さくら	荒 木 美帆子
篠 原 悠 希	雨 宮 智 子
原 田 梨 穂	竹 島 智恵子
岩 元 千華子	池 野 知 子
正 法 子	中 島 博 美
石 田 未 来	朝 岡 芳 枝
住 吉 勇 亮	伊牟田 えみこ

入 選

中学生の部	親 の 部
嶋 崎 有利子	安 永 いづみ
下御領 侑 椰	上 田 絵 美
松 村 菜奈海	中 釘 美 穂
遠 矢 梨 華	末 廣 節 子
寺 園 夕 莉	溝 口 孝
児 玉 ま い	平 川 理 恵
兼 中 亜 希	吉 見 孝 子
市 来 真 里	徳 田 藤 昭
塩 田 桐 真	谷 口 由起子
竹 内 ひかり	大 迫 栄 子
柳 元 蒼 太	染 川 康 信
上 床 優 依	岡 本 美智代
森 川 翔 馬	応募総数:12,279点

審査員講評

審査委員長

千々岩弘一先生

「このころの言の葉コンクール」が確実に地域社会に根付き始めている様子を耳にするとき、継続することの意義の大きさを実感する。この間には、募集様式・作品集の装丁などをはじめ実施・運営に関して、試行錯誤を繰り返してきた。関係各位の御尽力に心から感謝したい。特に、学校での取組みには、敬意を表したい。単に本コンクールに応募するだけでなく、作品集を活用した発展的な学習が展開されていると聞く。また、参加校も着実に増え、公立中学校だけでなく私立中学校からの応募も増えている。さらには、地域社会においても、作品集を通して中学生の「今」を知り、彼らに共鳴しながら援助の手を差し延べてくださる方もいらっしゃるといふ。ありがたいことだ。

ところで、肝心の保護者の応募数が伸び悩んでいる。本コンクールの趣旨からいえば、このことは看過できない。中学生と保護者の心の交流を促進する一助となることを願って取組まれていることを再確認したい。借越ながら、関係各位のお力添えをこの点に頂戴できることを願ってやまない。

鹿児島国際大学教授

坂尾加代子先生

様々な環境や立場、さらに、個性の違いがからみ合って生まれてきた「百人百様」の言の葉。今年もまた、たくさんの「このころの言の葉」に出会えたことに感謝しています。

全体を通して最も印象深かったのは、今回も、親と子それぞれの文章の中に、実に多くの「ありがとう」や「ごめんなさい」の言葉が述べられていたことです。これは、「言の葉」を綴る中で、自分の思いを素直に出すことができたからだと思います。親と子の深い絆を感じることもできました。

自立に目覚め始めた子ども、将来への不安や焦りを感じている子ども、反抗期宣言をしている子ども……。こうした子どもたちも、皆、一様に親からの見守りを求めています。このような思春期の子どもたちに戸惑いながらも、揺るぎない愛情をもって、我が子の成長を見守っているという親の姿は、いつの時代も変わりません。「書く」ということで知ることができた親と子の「真の思い」がお互いに、しっかりと届くよう願っています。

百人百様の「言の葉」に出会い、親も子も懸命に今を生きている姿に、「人間っていいな！」という思いがわき上がってきたことが忘れられません。まさに一葉一葉が、かけがえのない重みのある「このころの言の葉」でした。

市「さつまっ子」育成市民会議副委員長

海江田由加先生

街を歩いていたら、乳母車を押した同僚と会った。聞くと、七カ月の女の子だという。抱かせてもらったら、人見知りもせず、胸に小さな頭を預けてきた。柔らかな体と香りに、ほんわかした気持ちを思い出した。

「べつにー」とか「まじ、うざいし」なんて、憎たらしい口をきく中学生たちも、ついでこの前までは「だっこ、だっこ」と足下にまわりついていていた。子どもは、小さいころに屈託のない笑顔としぐさで親を幸せにしてくれるが、それで親孝行は「終了」だと思え、と何かで読んだことがある。その後の子育ての苦労と代価は、あのとときの笑顔で支払い済みということらしい。

言の葉に応募された「手紙」を読んでいると、悩みながらも、今を懸命に生きる子どもたちの姿が浮かび上がる。一方で親は、自分の経験をもとに未来に先回りしていろんな心配をする。そこに親子のすれ違いも生まれる。

すれ違いは、悲しかったり、腹が立ったりもするが、「言の葉」のいいところは、書き手がほんのちよつと立ち止まっているところにある。立ち止まって、深呼吸をして周囲を眺めると、普段は気づかなかった反省や感謝の気持ちが出てくる。親であれば、あの日の子どもの笑顔も思い出すかもしれない。

立ち止まって考えたら、その人の歩き方はきっと変わってくる。そう信じて。

南日本新聞社編集委員

山元一八先生

六年目を迎えた本コンクールに、市立三十九の全中学校をはじめとして計四十二中学校から一二、二七九点という多くの作品が寄せられたことに驚嘆している。本事業に対する市当局をはじめ各学校の尽力に心から敬意を表したい。

さて、「家庭は、人間の母港である。」とよく言われる。しかし、今日、大きな社会問題になっている「子育てに関する凶悪な事件の増大」は、社会がこの「家庭」の機能を喪失しつつあることの現れであると言っても過言ではない。

そうした中で、ここに寄せられた中学生及び保護者の数多くの「絶叫」や「つぶやき」は、どれ一つとつても涙なくしては読めない。まさに「人間の心の奥底の鐘の響き」であり、今日の社会状況に対する警鐘でもある。皆、この鐘の音に耳を傾けるべきである。

思春期であるが故に、混乱と自己矛盾に陥り、孤独感にさいなやまされながらも、自我の確立に必死に立ち向かう本市の中学生諸君の珠玉の「こころの言の葉」である。

心の奥底で、「父よ！母よ！ありがとう！」と絶叫している本市中学生諸君の「やさしさ」が心にしみる。

父母が頭かき撫で幸くあれて言いし言葉ぞわすれかねつる（「万葉集」防人）

本誌が、学校や家庭、地域社会等で十分に活用され、「やさしさ」が一層広がり深まることを心から期待したい。

元公民館長

遠矢仁司先生

応募作品が一万点を超えるひとつひとつの言の葉に、今の思いが精一杯綴られていて、一枚一枚めくる都度に心を揺さぶられる審査になりました。原文のまま目にできた感動と、日頃は面と向かって言えない様々な思いに安堵したり、気掛かりになったりと、感情の交錯の連続でした。

家族や家庭の有り様が問われている今日ですが、それぞれの作品にはまだ、心をつなぐ言葉があふれています。今はまだ、しっかりととした親と子の絆がこれからも絶えないように、また、ほころびかけた絆があるなら、今引き留めてほしいと願うばかりです。そのために、親として、大人として、子どもたちとしっかりと向き合っていかななくてはならないと思います。

思いを言の葉にして応募してくださいました皆さんに感謝するとともに、寄せられた素晴らしいこころの言の葉を、多くの人に伝えたいと思います。

市PTA連合会会長

こころの言の葉

～第6集 伝えたい思い～

平成21年1月31日

発行 鹿児島市教育委員会
〒892-0816 鹿児島市山下町6-1
TEL (099) 227-1941 FAX (099) 227-1923

